

丹波高原につつまれ 人の交流・連携で築く ぬくもりと躍動のあるまち

広報 京丹波



KYOTAMBA TOWN

【特集】

子どもたちの安全を守ろう

園児たちが節分の豆まき

2月3日、わちエンジェルで行われた節分の行事・豆まきのひとコマ。園児たちは、かけ声に合わせて、紙で作った豆をまき、季節の行事を楽しみました。



CONTENTS

特集・子どもたちの安全を守ろう	2~7
シリーズ・地域の躍動②	8・9
暮らしのガイド・4月からこうなります①	10・11
消防団組織などの検討始まる	12
南丹警察署スタート／わくわくBOX	13
フラッシュ TOWN NEWS 2006	14・15
まちの元気人②	16



特集

子どもたちの安全を守ろう

職員の引率で集団下校する下山山の児童たち(下山・栄農橋付近)



児童たちの安全を見守る地域の皆さま(質美和田)



子ども110番の車パトロール(瑞穂地域内)

昨年十一月から十二月にかけて広島、栃木で連続して発生した幼い子どもの命が奪われる凶悪な事件。同じころ、宇治市の学習塾でも小学生の尊い命が奪われ、社会全体に衝撃が走りまし

た。近年、増え続ける子どもの犯罪被害に、町内でも現在、学校や地域などが、さまざまな活動を通じて、子どもたちの安全確保に努めています。都市・農村の別なく、どこでも起こりうるこうした犯罪を防ぐのは「地域の目」。住民一人ひとりが防犯意識を高め、皆さんが地域の子どものために向けるあたたかい見守りの「目」は、犯罪抑止の大きな力になるのです。

全国で相次ぐ子どもの犯罪被害

警察庁の統計によると、平成十七年中(一月～一月)に子ども(少年、二十歳未満の人)が被害者になった犯罪件数は、全国で三〇万四、二六件(全刑法犯罪被害件数の一七・五%)。就学別にみると、未就学児童が被害にあったのは五七七件(〇・二%)、小学生が二万二、六四九件(七・四%)、中学生が六万四、一二二件(二一・一%)、その他の少年が二



防犯教室で不審者への対応を学ぶ児童たち(三ノ宮小)

高まる意識。地域でも見守り活動やパトロール活動を展開

小学校や児童をねらった事件が急増する昨今の情勢を踏まえ、地域でも、子どもたちの安全を見守る意識が高まっています。

丹波・瑞穂・和知の各地域の防犯推進委員によるパトロール活動をはじめ、老人クラブや地域の高齢者などが下校する児童に付き添って歩いたり、通学路に立って、児童の安全な下校を見守ったりする自主的な活動が行われています。

現在のところ、町内では子どもをねらった凶悪な犯罪は発生していませんが、今後も起こらないとは限りません。重大な事件に進展していないものの、下校途中の児童が不審な車につけられたり、声をかけたたりする「声かけ事案」は発生しており、日常的に危険な因子が存在していることを地域に住む一人ひとりが認識し、学校、地域、行政が連携して継続的な取り組みを展開してこ

とが重要になります。

万六、八七八件(七一・二%)でした。子どもが被害者になる犯罪の件数は、前年の同じ時期に比べ、二万六、一四一件(七・九%)減少しましたが、全刑法犯罪に占める割合は前年よりも〇・八%増加しています。

罪種別にみると、未就学児童は「暴行」「殺人」など、小・中学生は「略取・誘拐」「恐喝」など、その他の少年は「窃盗」「わいせつ」「詐欺」などで被害者になる割合が高くなっています。

昨年十一月二十二日には広島県で、そのわずか十日後の十二月一日には栃木県で、京都府内においても十二月十日、宇治市の学習塾で、子どもの命が奪われる凶悪な事件が発生し、社会全体に衝撃が走りました。昨年末に起きたこれらの連続した事件は、都市部、農村部の別なく、犯罪が起こりうることを示しているといえます。

学校・PTAではさまざまな対策を実施

このように、全国各地で相次ぐ幼い子どもの命をねらった犯罪から児童たちの安全を守るため、町内の各学校は、児童の集団下校、教職員によるパトロール、警察と連携した防犯教室や学校への不審者侵入時を想定した対応訓練の実施、通学路の安全点検、防犯マップの作製など、さまざま安全対策に取り組んでいます。

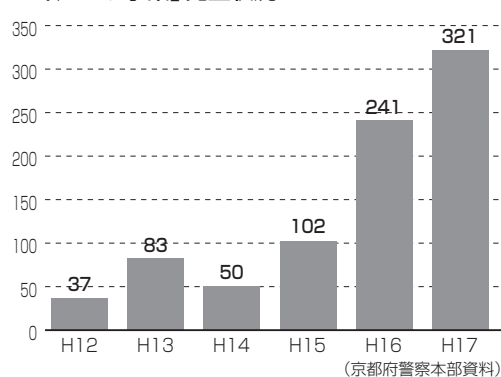
PTAも独自で腕章や「パトロール中」と表示したプレートなどを作製し、学校と協力して通学路点検やパトロール活動などを実施しています。また、教育委員会でも腕章やプレートを作製。町内の各学校に配布したほか、事業所や集落などにも配布し、子どもたちの安全対策への協力を呼びかけています。

子どもの刑法犯被害件数

区分	年次	H16年		H17年		増減	
		(1月~11月)	(1月~11月)	(1月~11月)	(1月~11月)	件数	率(%)
全刑法犯	被害件数	2,137,322	1,973,036	1,735,826	-237,210	-12.0	
	少年	356,426	330,357	304,216	-26,141	-7.9	
	(割合%)	16.7	16.7	17.5	0.8	-	
	成人	1,780,896	1,642,679	1,431,610	-211,069	-12.8	
(割合%)	83.3	83.3	82.5	-0.8	-		

(警察庁資料)

府内の子ども(中学生以下)を対象とする「声かけ事案」発生状況



(京都府警察本部資料)

※「声かけ事案」とは、府内において、地域の皆さんや学校などから警察に届け出のあった、子ども(中学生以下)に対する「声かけ」であって、事件には至らないものや、不審者の出没情報を言います。



子どもたちの安全を守ろう

各学校の取り組み

児童の安全を守るため、現在、町内の各小学校やPTAで取り組まれている防犯対策をみていきます。

一斉(集団)下校・職員のパトロール

町内すべての小学校で毎日、全児童または学年別の一斉下校を実施し、集団下校による安全対策を図っています。学校によっては、遠方で国道沿いを歩いて帰る児童をバス通学に変更しています。



集団下校に付き添いパトロールする職員(竹野小付近)

また、下校時の職員によるパトロール活動も、すべての小学校で行われています。全職員で班を編成し、当番制で毎日、下校する児童や通学路のパトロールを行っています。

学校・PTA・地域が連携

松山小は一月二十三日、「松山小学校通学安全対策会議」を開き、同地区区長会や公民館、老人会、民生児童委員、PTAの代表、園部署松山駐在所の署員ら八人が出席。同小校区内での子ども安全対策に智恵を出し合いました。

こうした会合を昨年十一月十九日に行っていた明俊小では、下校時間帯に合わせて犬の散歩やウォーキング、通学路に出て児童へのあいさつなど声かけをする「防犯ボランティア」を募集。現在、同小校区内の二十一世帯がボランティアとして見守り活動を展開しています。

このほか、毎日、「下校時刻をケーブテレビ告知放送で知らせる」「安全だより」を発行し、住民と情報を共有する「など、地域と連携したさまざまな取り組みが具体化しています。



通学安全対策会議で子どもの安全対策を話し合う出席者(松山小)

また、質美小でも同様に「子どもの安全見守り隊」活動を校区内の世帯に呼びかけ、現時点で約二十世帯がこれに協力。学校と地域が一体となった安全対策を進めています。

一方、和知小校区は本年度、園部署警察署の子どもの安全対策を地域ぐるみで進める「お帰り声かけ通学路モデル地区」の指定を受けており、地域住民や同地区の防犯推進委員らが、下校時間帯にパトロールを行ったり、通学路に出て「お帰り」と声をかけたりして、家路につく児童たちの安全を見守っています。

防犯教室や訓練の実施

各学校では、警察と連携し、不審者の学校への侵入を想定した職員の対応訓練や、児童の避難訓練を実施し、実践的な訓練を通じて、緊急時に立ち着いて行動する力を養うとともに、犯人への対応や子どもたちの避難経路の確認をしています。

登下校中、危険にあわないよう、子どもたち自身が「自分の身は、自分で守る」心構えなどを学ぶ防犯教室も実施しています。



学校への不審者侵入を想定した対応訓練(明俊小、平成17年5月)

安全マップを作製

和知小ではPTA会員が児童の通学に付き添い、通学路を点検し、危険な場所や注意しなければならない場所などを記入した「安全マップ」を通学ブロックごとに

PTA会員で「安全マップ」を作製



和知小PTA会長 隅山昇さん(小畑)

和知小PTAの委員会のひとつ「健康安全委員会」のメンバーが中心となって、通学ブロックごとに通学路を点検し、防犯上、危険な場所や、子どもへの通学に付き添って気がついたことなどを地図に記入した「安全マップ」を作製しました。通学ブロックごとに、全通学ブロックの安全マップをまとめたファイルを作り、互いに情報を共有できるようにしています。

近年、相次いでいる子どもをねらった犯罪は、都市部だけの犯罪ではなく、どこでも起こりうる犯罪であるだけに、日ごろの取り組みが大切ではないでしょうか。田舎には隣近所で助け合う気風があり、そういう地域のつながりが犯罪の抑止力になっていると思います。

地域の方々も子どもの安全対策に関心を持っていただけており、下校時間帯に街頭に立って子どもたちに声をかけたり、パトロールしたりしていただいていることがとても心強く、感謝しています。

PTA会員も共働きが多く、まとまった活動がなかなかできませんが、学校や地域の方々との協力して、今後子ども安全対策を継続していきたいと思っています。

に作製。全会員、全児童が全地域のことを把握できるよう、全ブロックのマップを集約したファイルを地区ごとに持ち、活用しています。

松山小でも、PTA会員らが地域別懇談会での話し合いをもとに、通学路などでの危険箇所を点検し、「地域別安全マップ」をまとめました。

竹野小は、現在、「安全マップ」を作製中。職員が通学路の点検を行い、防犯の観点から危険な場所などの情報を収集しており、それらの情報と「子ども二〇番の家」などの位置も記入し、仕上げる予定。



和知小PTAが作成した安全マップ

携帯電話メールで情報発信

丹波ひかり小は、不審者の出没や気象災害、インフルエンザの流行による学級閉鎖などの情報をいち早く保護者らに知らせるため、保護者の携帯電話にメール配信するシステムをつくり、現在、運用に向けた準備作業を進めています。

同小は、学校と保護者の間でいち早く情報を共有できる仕組みづくりとして同システムの導入を決定。対象は保護者のみで、登録は希望制。昨年末に約二百四十世帯の全保護者に趣旨を説明し、登録の申し込みを呼びかけました。二月中には運用開始の予定です。



丹波ひかり小では携帯電話メールで不審者情報などを保護者に配信。2月中には運用開始予定

「常日ごろからの地域とのつながりを安全対策に」



質美小学校長 湊友三郎さん

昨年十二月に、校区内で不審な車両があり、各校中の児童を執拗につけ回す事件がありました。この事件や、全国各地で児童がねらわれる事件が続発している状況などを踏まえ、本校では、児童の安全を確保するため、PTAや地域と連携したさまざまな安全対策を始めました。

PTAでは会員がパトロール用のプレートを作り、全会員に配布しました。あわせて「通学路警戒中」の看板も作り、各地区の通学路に掲出しました。

また、地域住民の皆さんに、下校時に通学路に出て児童たちの安全を見守ってもらう「子どもの安全見守り隊」の募集をしました。現在、校区内の約三十世帯にご協力いただけており、児童たちをあなたたちが見守っていただいていることに感謝しています。

本校では現在、授業参観やもちつきなどの校内行事に、地域の方々も参加していただいています。これは地域の皆さんに地域の子どもの顔を覚えていただく機会を設け、地域の人と子どもたちとのつながりを育むためです。

こうした常日ごろからの地域の方々や児童たちとのつながりは、学校と地域が連携して子どもたちの安全対策を図るうえで大切な要素だと考えます。



子どもたちの安全を守ろう

地域の取り組み

子どもたちの安心・安全の確保には、皆さんが地域の子どもたちを見守るあたたかい目、すなわち「地域の目」が大きな力になります。ここでは、各地域で取り組まれている活動をみていきます。

地域の見守り活動

明俊小や質美小、和知小の校区では、地域の人びとが、下校時間帯に合わせて散歩したり、通学路などに出て声をかけたりして、児童の見守り活動をしていることは先に述べたとおりですが、下山小学校区でも、グリーンハイツの老人クラブ「福寿会」が、低学年の集団下校に付き添って歩き、児童の安全を見守っています。

同会が活動を始めたのは平成十六年十二月。「地域の子どもたちの安全を守るために、自分たちにも何かできることがないだろうか」と役員会で提案があり、同活動の実施を決めました。



下山小児童の集団下校に付き添い、見守り活動をするグリーンハイツの老人会「福寿会」の会員（グリーンハイツ内）

現在、同会の会員七、八人が当番制で週一回、月曜日と木曜日に下山地内の黒瀬橋からグリーンハイツまでの約一五キロを児童に付き添って歩き、子どもの安全対策に力を注いでいます。

防犯推進委員がパトロール活動を実施

丹波瑞穂の両地域の防犯推進委員は、昨年十一月から「帰ろう家路（イエロー）運動」に取り組んでいます。

この運動は、シンボルカラーを「イエロー」として、黄色いリボンを車のアンテナなどに取り付け、下校時刻に通学路周辺の見回りや、家路につく児童の見守りなどのパトロールを行う活動です。

また、和知地域では、同地域の防犯推進委員が、合併前から取り組んでいる青色回転灯をつけた車での防犯パトロール活動を継続して実施。児童が下校する時間帯などに町内をパトロールし、地域の子どもたちの安全を見守っています。

活躍する防犯推進委員



黄色いリボンを付けてパトロールへ出発

船井郡防犯推進委員協議会 丹波支部長
奥山義雄さん（須知）



丹波支部では「帰ろう家路（イエロー）運動」を展開しています。地道な活動ですが、地域の子どもたちの安全を地域の力で守るため、二十一人の委員で協力して活動を継続させていきたいと思っています。

最近では、ごみの収集車なども黄色いリボンをつけて走っていただけており、活動への協力者が少しずつ増えていることを心強く思っています。
わたしたちの活動が、地域住民の皆さんの防犯意識の向上に少しでも役立てば良いと思います。

船井郡防犯推進委員協議会 和知支部長
正田芳寛さん（小畑）



和知支部では、合併前に始めた青色回転灯を取り付けた車での防犯パトロール活動を継続して実施しています。
毎月一日、五日、十五日、二十日に町内をパトロールしています。委員のなかには毎日、子ども登下校時にパトロールするなど熱心に取り組んでいただいている方もいます。

最近、不審者があれば連絡が入ってくることもあり、わたしたちの活動が地域の皆さんに少しずつ認知されてきたんだなと感じています。安心・安全なまちを目指し、委員一同協力して活動を継続していきたいですね。
園部警察署としても、学校や地域での防犯教室など、さまざまな機会を通じて住民の皆さんの防犯意識の向上に努め、各学校やそれぞれの地域での自主的な防犯活動を支援していきますので、それぞれの活動を継続し、活動の輪を広げてほしいと思います。

園部警察署からのアドバイス



園部警察署生活安全課長
小浦克仁さん

取り組みの常態化が大切
近年、全国各地で幼い子どもをねらった犯罪が相次いで発生し、大きな社会問題となっています。

園部署管内においては、現在のところ、学校への不審者侵入や子どもがねらわれる犯罪などの発生はありませんが、下校する

健康づくりもかねて下校時に歩いています

グリーンハイツの老人会「福寿会」代表
上林正幸さん（下山）



福寿会は平成十六年十二月から、下山小の子どもたちの下校に付き添う見守り活動をしています。週一回、低学年の集団下校のみの限られた活動ですが、会員七、八人で当番を組み、自分たちの健康づくりもかねて、子どもたちと一緒に歩いています。

大切なのは、活動に携わっている会員の安全。無理をせず、できる範囲で子どもたちの見守り活動が続いていくことが、犯罪の抑止力になるのではないかと考えています。

学校や教委などと連携して

辻美智子さん
（上大久保）



明俊小の防犯ボランティアに登録して、下校する子どもたちの見守り活動をしています。学校付近まで歩いていく子どもたちを迎え、そこから自宅までいっしょに歩いています。

ときどき、子どもたちが道はみ出して歩いていたりと注意することもあり、「うるさいおぼちゃんやな」と思われているかもしれませんが、こうした活動を通じて、少しでも子どもたちの安全を守りたいですね。また、学校や教育委員会と連携して活動していきたい、不審者などの情報があれば、すぐに流してほしいと思います。

児童が不審な車につけ回されたり、不審者に声をかけられたりした「声かけ事業」は最近増えてきています。

こうした犯罪の抑止に「特効薬」はありません。大切なのは、地域の子どもたちの安全を見守る「地域の目」です。まずは、各学校、行政、地域などの皆さんが、広島や栃木で発生した事件は、「どこでも起こりうる犯罪である」ということをしっかりと認識することが重要です。

そして、防犯推進委員の皆さんを中心に取り組まれている「帰ろう家路（イエロー）運動」や「青色回転灯パトロール」、地域の皆さんによる下校時の見守り活動など、さまざまな活動を通じて、地域住民の防犯意

識が高まり、これらの活動が常態化するというのが理想です。

不審者は事前に、必ず地域を下調べしているものです。そのとき、地域内でパトロールカーや通学路に立って、下校する子どもたちを見守る地域の皆さんのすがたが、不審者にその地域での犯行をあきらめさせ、犯罪抑止の大きな力になるのです。

子どもといっしょに子どもと防犯対策を

子ども主導で、子どもの視点に立った防犯対策も重要です。

たとえば、各地域には、通学路沿いなどの各世帯の協力を得て、子どもが登下校

『琴滝に冬ほたるが舞う』

琴滝のイルミネーションイベント「冬ほたる」

滝へと通じる並木道に青白二色の無数の光がさん然と輝く。そのきらめきは、冬に舞うホタルのような美しさ。幻想的な光の競演に、多くの人びとが魅了された。夢の舞台を手がけたのは、町内の若手でつくる「まちづくりグループ」丹波みらい研究会だ。

「丹波みらい研究会」の誕生

「丹波みらい研究会」（岩崎栄喜雄会長）が誕生したのは平成十六年二月。「生まれ育ったこのまちを良くしたい、活気あふれるまちにしていきたい」「まちづくりへのそんな熱い思いをもった町内の若手七人が集まり結成された。

同研究会が目指すまちづくり、それは「多くの人びとが集まるまち」。何度も議論を重ねて確固たる理念を見出したメンバーたちは、人びとが「通過するまち」から「立ち寄るまち」を目指し、まずは観光に的を絞り、琴滝の観光開発に乗り出した。

同年の夏、琴滝の草刈りから研究会の活動が始まった。八月の暑い最



同研究会の総務担当・森隆さん

中の作業はつらいものであったが、きれいにたっていく琴滝に、メンバーたちのまちづくりへの思いも高まっていった。会員を募集し、メンバーも二十一になり、滝の景観保全と併せてホタルの繁殖事業にも着手した。

十月、悲劇が起こった。台風三号が町内に甚大な被害をもたらした。メンバーたちがきれいにした琴滝も例外ではなく、大きな被害に見舞われ無残な姿へと変わってしまった。倒木、土石の流出など、「自分たちの力では無理かもしれない」と思わせるような光景であったが、メンバーたちはあきらめなかった。力を合わせ、地道な復旧作業に汗を流した。再び美しくなった琴滝へのメンバーたちの思いがさらに深まっていった。

春は桜吹雪が舞う琴滝。夏にはホタルが舞い、秋には紅葉色づく。そして冬。メンバーたちの間で、冬の琴滝を舞台としたひとつの企画が生まれた。その名は「冬ほたる」。

夢の舞台への軌跡

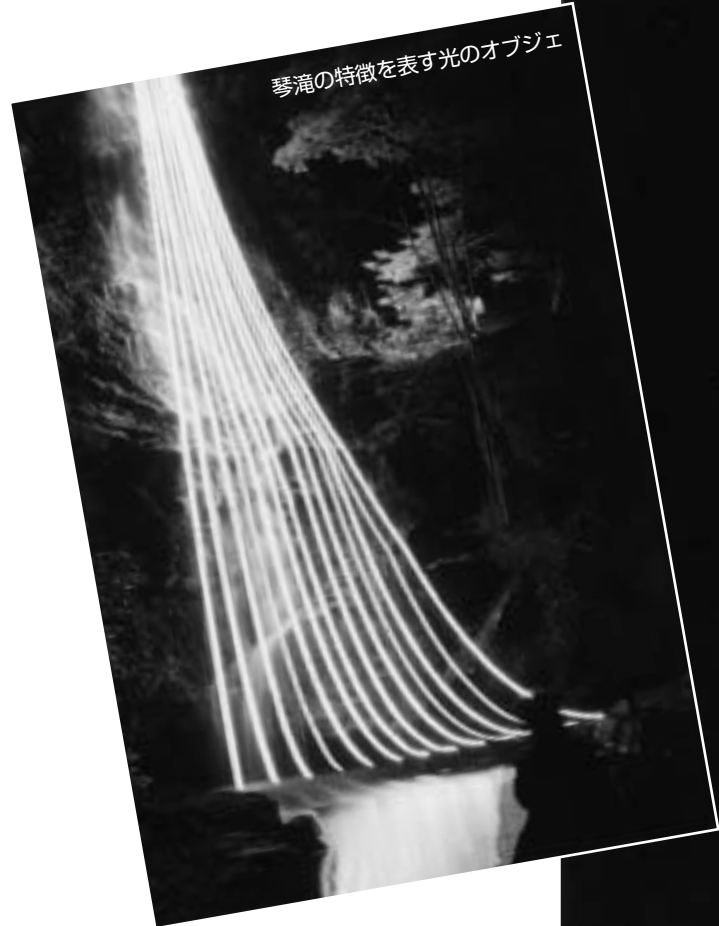
「この冬、琴滝で数万灯のLED（発光ダイオード）を使い、冬の琴滝を舞うホタルをイメージ

「冬ほたる」は、琴滝が須知川の水辺公園かのどちらかでやるつもりだった」と岩崎会長。「安全面や、メンバーにかかる負担などを考えると水辺公園の方がやりやすかったらうが、メンバーの気持ちの中にはもう、『琴滝』しかなかった。「琴滝でやらないと意味がない。やること、ひとつになったメンバーの気持ちがいれなかったと岩崎会長は明かす。

十一月。本番に向けた準備が着々と進む。遊歩道の並木にLEDを飾りつけ、高さ四三メートルの滝の上からはLEDを内蔵した透明のチューブを十三本垂らした。水の流れが十三弦の琴糸のように美しい琴滝の特徴を表す光のオブジェだ。師走の忙しい最中、メンバーたちは仕事の合間をぬって作業を進め、ついに夢の舞台が整った。

「人びとが集まるまち」づくりへの展望

十二月十日―二十五日までの十五日間開催された琴滝のイルミネーションイベント「冬ほたる」には、約八千人が訪れた。町内はもとより、京阪神からも多くの人があり、無数の光がつく

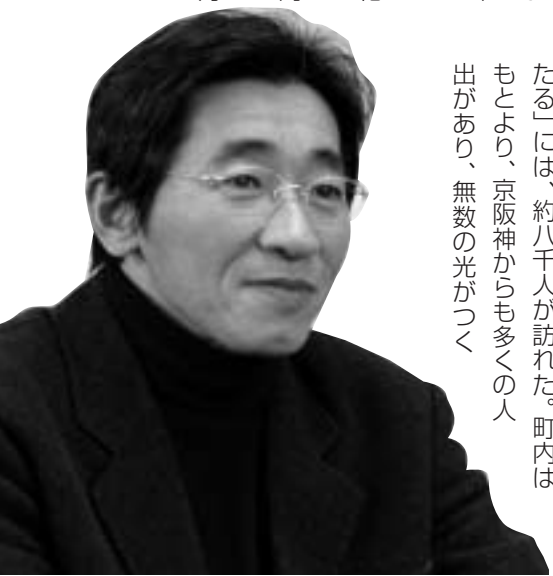


琴滝の特徴を表す光のオブジェ

した幻想的なイルミネーションイベントをやること。メンバーたちは「冬ほたる」の実現に向け、企画書をもとに動き出した。昨年初夏のことだった。

「みらい研究会の存在を多くの人に知ってもらい、人びとの注目を集めなければならぬ」という思いや、自分たちの手でまちを活性化させたいなどの思いがあって、『冬ほたる』を企画した」とメンバーのひとり、森隆さん。まずはイベントを手法として、まちの活性化を考えたと話す。

メンバーたちは資金面での協力依頼に町内の事業所や商店をかけた。『冬ほたる』の企画書を手にも、熱い思いをぶつけた。数カ月で二百万円の協賛金が集まった。八月にはLEDを購入し、夢の舞台へ準備を着々と進めた。



丹波みらい研究会会長・岩崎栄喜雄さん

り出す幻想的な空間が訪れた人びとを魅了した。「夢のあるイベントが開催できたのは、ご協賛いただいた方々をはじめ、地元集落の方々など多くの皆様のご理解とご協力、ご支援があったからこそ。感謝でいっぱいだ」と岩崎会長。「事故なく無事に終えることができたのは、期間中毎日、寒い中を一生懸命、運営にあたってくれたメンバー一人ひとりの努力のおかげだ」と感慨深く静かに語った。

「このまちに住む人が誇りを持って紹介できる場所、京阪神地域へ自信を持って発信できる観光資源開発をしていかなければ。そのために必要なものは、活動の持続。『冬ほたる』を町民全員でつくり上げるイベントにしていきたい。地域にしっかりと根をおろし活動していくことが大切だ」。岩崎会長が熱く語った。

「今の活動は、町民の中に参加したいと思っている人がいても参加できない状態。会員として常時活動に参加するのは難しいけど、『冬ほたる』の手伝いがしたいという気持ちを持ってきてくれる人がいるので、今後はそういう人たちが活動に参加できる『しくみ』、みらい研究会のサポート（協力員）制度のようなものをつくり、中学・高校生や中高年の人たちに呼びかけていきたい」と森さん。「今後は、イベント手法の活性化のみならず、メンバーで智慧を出し合い、色んな企画で『人びとが集まるまち』を目指していきたい」と今後の展望について語った。

二年前、結成当時七人だった会員も現在は二十五人に。今年は一〇〇―二〇〇人のサポートづくりや、NPO法人化も視野に入れ、みらい研究会の新しい体制を整えていく。「次の時代を担う子どもたちに夢を与え続けていきたい。今年の冬もやる」と最後に岩崎会長。冬ほたるが待ち遠しい。

4月からこうなります

1

暮らしのガイド



固定資産税

■税率

瑞穂地区は、合併特例法の規定に基づく不均一課税を適用し、平成17年度については、1.4%でしたが、平成18年度から1.45%になります。(平成19年度からは丹波地区・和知地区と同じ1.5%になります。)

■納期

平成18年度から下表のとおり統一します。

第1期	5月1日 ~ 5月31日
第2期	7月1日 ~ 7月31日
第3期	9月1日 ~ 9月30日
第4期	12月1日 ~ 12月25日

※納期の末日が土・日・祝日にあたるときは、その次の平日が納期限となります。

保育所 問い合わせ先／子育て支援課 ☎82-1394

■保育時間

平成18年度から下表のとおり統一します。

基本保育時間		一般保育時間		延長保育時間	
平日	8:30~16:30	平日	8:00~18:00	平日	7:30~ 8:00 18:00~18:30
土曜日	8:30~12:30	土曜日	8:00~12:30	土曜日	7:30~ 8:00

■保育料

平成18年度から下表のとおり統一します。

各月初日の入所児童が属する世帯の階層区分		保育料基本額(月額)	
階層	定義	3歳未満の児童	3歳以上の児童
A	生活保護法による被保護世帯(単給世帯を含む。)	0円	0円
B	A階層およびD階層を除き、前年度分の町民税の額が右の区分に該当する世帯	町民税非課税	9,000円
C1	町民税の額が右の区分に該当する世帯	均等割の額のみ(所得割の額のない世帯)	10,000円
C2		所得割の額が5,000円未満	15,000円
C3		所得割の額が5,000円以上	19,000円
D1	A階層を除き、前年分の所得税課税世帯であって、その所得税の額が右の区分に該当する世帯	3,000円未満	23,000円
D2		3,000円以上10,000円未満	26,000円
D3		10,000円以上30,000円未満	29,000円
D4		30,000円以上50,000円未満	32,000円
D5		50,000円以上70,000円未満	35,000円
D6		70,000円以上100,000円未満	38,000円
D7		100,000円以上140,000円未満	41,000円
D8		140,000円以上180,000円未満	44,000円
D9		180,000円以上220,000円未満	47,000円
D10		220,000円以上	50,000円

※保育料の免除／B階層と認定された世帯であっても、次の世帯に該当する場合は、保育料が0円になります。

- ①母子世帯など
- ②在宅障害児(者)のいる世帯(身体障害者手帳または療育手帳の交付を受けた人、特別児童扶養手当の支給対象児、国民年金の障害基礎年金などの受給者)
- ③保護者の申請に基づき、生活保護法に定める要保護者など特に困窮していると町長が認めた世帯

合併協議会で確認された合併協定内容において、「合併の翌年度(平成18年度)から統一する」とされていた各種事業や、法改正に伴い一部変更される制度についてお伝えします。

町税

問い合わせ先／税務課 ☎82-3802

町府民税

税制改正に伴い、平成18年度から町府民税が一部変わります。

■公的年金等控除額の変更

	公的年金等の収入額	雑所得の金額
受給者の年齢 65歳以上の人 (改正前)	1,400,001円~2,599,999円	収入金額-1,400,000円
	2,600,000円~4,599,999円	収入金額×0.75-750,000円
	4,600,000円~8,199,999円	収入金額×0.85-1,210,000円
	8,200,000円~	収入金額×0.95-2,030,000円
65歳以上の人 (改正後)	1,200,001円~3,299,999円	収入金額-1,200,000円
	3,300,000円~4,099,999円	収入金額×0.75-375,000円
	4,100,000円~7,699,999円	収入金額×0.85-785,000円
	7,700,000円~	収入金額×0.95-1,555,000円

■老年者控除の廃止

65歳以上で、前年の合計所得金額が1,000万円以下の人に適用される老年者控除48万円が廃止となります。

■65歳以上の人にかかる非課税措置の廃止(町府民税のみ)

65歳以上で前年の合計所得金額が125万円以下の人(昭和15年1月2日以前に生まれた人)に65歳に達した人は、税額を減額する経過措置があります。

平成18年度	所得割および均等割の税額の3分の2を減額
平成19年度	所得割および均等割の税額の3分の1を減額
平成20年度以降	全 廃

■定率控除の縮減

定率による税額控除額が、所得割額の15%(上限4万円)から7.5%(上限2万円)に引き下げられます。

■生計を同一にする妻に対する均等割の非課税措置の廃止

均等割の納税義務を負う夫と生計を同一にする妻で、夫と同じ市町村内に住所を有する人は、経過措置の終了により均等割4,000円が全額課税となります。

■納期

平成18年度から下表のとおり統一します。

第1期	6月1日 ~ 6月30日
第2期	8月1日 ~ 8月31日
第3期	10月1日 ~ 10月31日
第4期	1月1日 ~ 1月31日

※納期の末日が土・日・祝日にあたるときは、その次の平日が納期限となります。

消防団組織の検討始まる



町消防団組織などについて諮問する松原町長（役場会議室）

平成十八年度から発足する京丹波町消防団の組織体制などについて検討する「京丹波町消防団組織等審議会」の初会合を一月二十日、役場会議室で行い、松原茂樹町長が新しい消防団のあるべき姿について諮問しました。

新消防のあるべき姿について諮問

初会合では、松原町長が委員に委嘱状を交付した後、平成十八年四月一日付けで京丹波町消防団として再編するにあたって、消防団の組織や消防施設、団員の報酬など新しい消防団のあるべき姿について諮問しました。

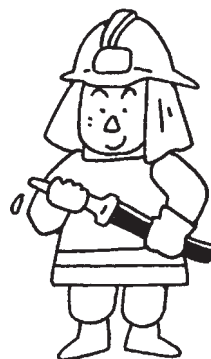
同委員会は、議員や消防団員、町民など八人の委員で構成。会長には瑞穂町消防団長・友金一郎さん（現京丹波町連合消防団長、大朴）、副会長には町区長会長・吉田昭さん（本庄）が選ばれました。

組織体制や施設管理、団員報酬などを協議

消防団組織については、合併後も現行のまま引き継がれ、旧三町の消防団がそれぞれ存続。連合消防団長が置かれています。防災センターや詰所など消防施設および団員の任用・給与などについても現行のまま引き継がれています。

合併協議では、一消防団に再編する時期を平成十八年四月一日とし、組織の再編と併せて消防施設の配置、管理方法を調整。団員の任用・給与なども審議会で決定し、平成十八年四月一日から適用することが決まっております。今後、同審議会委員は、新しい組織体制、施設の維持管理方法、団員の報酬などについて協議していきます。

組織については、今回の再編後二年以内に抜本的な見直しを行う予定です。



京丹波町消防団組織等審議会委員（敬称略）

氏名（住所等）	選出区分
野口久之（豊田）	議会推薦
片山孝良（広野）	
湊 嘉秀（須知）	
友金一郎（大朴）	消防団員
森 良行（安栖里）	
吉田 昭（本庄）	学識経験者
田畑美さ子（蒲生）	
廣瀬仁久 （京都中部広域消防組合園部消防署丹波出張所長）	

平成十八年四月一日 南丹警察署スタート！

園部警察署は、警察署の再編により、旧美山町の地域を含む南丹市全域と京丹波町を管轄とするところから、四月一日、警察署の名称を改め「南丹警察署」としてスタートします。

新しくスタートする南丹警察署では、パトカーを増車して街頭活動や交通事故防止活動を強化するなど、「安全で安心なまちづくり」をいっそう推進していきます。



4月1日から南丹警察署としてスタート（現園部警察署）

旧美山町にお住まいの方々の利便性を損なわないよう、運転免許更新手続きについては、南丹警察署窓口のほか右京警察署京北交番（現京北警察署庁舎）でも手続きを行うこととしています。なお、南丹警察署長の証明などが必要な証明や許認可などについては南丹警察署で手続きを行います。

詳しくは、園部警察署電話621-0110
電話621-0110

読者の皆さんが 情報発信するコーナー

地域の伝言板 わくわくBOX

毎月興味をもって読んでいます。私自身も企業広報の制作の仕事に携わっており、新町になってどんな広報紙ができるのか楽しみにしていました。

編集者の熱意が紙面からひしひしと伝わってきます。編集者自身が楽しんで作る広報紙は、読んでみたいという気になりますので、今後とも愛読させていただきますようお願いいたします。

（升谷・安藤さん）

あたたかいお便りをいただき、ありがとうございます。いただいたお言葉を胸に、今後も町民の皆さんに分かりやすい広報紙、親しまれる広報紙、興味をひく広報紙づくりに努めていきますので、今後とも愛読いただきますようお願いいたします。

（写真愛好家・小園深志さん）

七十七歳、匿名希望の方から「数え歌」の投稿がありましたので、紹介します。

一ととや、人々信義を第一に、平和な世の中作りましょう

二ととや、二人の御親大切に、思へば深き父の恩、母の愛

三ととや、幹は一つの枝と枝、兄妹仲良く助け合ひ

四ととや、良き事互に進め合ひ、明るく楽しく和やかに

五ととや、偽り言はぬが、子供等の学び始めよ守らせよ

六ととや、昔を考へ今を知り、我慢強くやる気出せ

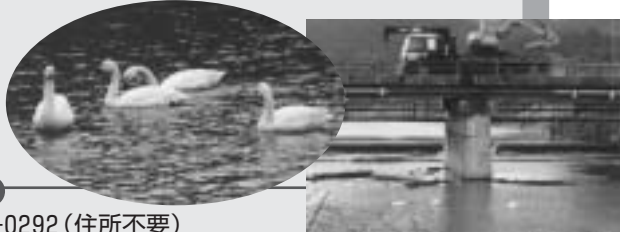
七ととや、南無阿弥陀仏と神仏に感謝の心を忘れなよ

八ととや、やっぱ健康第一よ、日ごろの養生に気をつけよ

九ととや、苦しい中でも気の持ち様、地獄極楽此の世に

十ととや、とつとつ百を生きてきた、心おきなく旅立とう

終わりが良ければすべて良し



送り先

〒622-0292（住所不要）
京丹波町企画情報課広報京丹波「わくわくBOX」係
ファックス／82-2500
Eメール／kikaku30@town.kyotamba.kyoto.jp

このコーナーは、「身近に起こった出来事」や「感動したこと」、「みんなに教えてあげたい・わたしの健康術」、「こんなサークル活動始めました」、「まちづくりについての意見」、「広報紙への感想」、「イラスト・絵画・写真」、「エッセイ・詩・俳句、川柳」など、読者の皆さんの身近な情報発信としてご利用ください。はがきに住所・氏名・電話番号を記入のうえ、情報をお寄せください。匿名希望やイニシャルの場合は、氏名を記入したうえで、その旨を明記ください。（お寄せいただいた情報は随時、掲載します。）ファックス、Eメールでも情報をお待ちしています。

防災への誓い新たに

一月八日、町内各消防団の出初め式が行われました。蒲生野中グラウンドで行われた丹波町消防団（松村俊憲団長）の出初め式には、消防団員や婦人消防協力隊員ら約三百六十人と、ポンプ自動車、小型ポンプ付積載車など十七台が出動。松原茂樹町長が「本年は町内の三消防団が『京丹波町消防団』として新たに出発する。築きあげた伝統を大切にしながら、いっそう強固な団結をもって町民に信頼される消防団であり続けてほしい」とあいさつを述べました。

【丹波町消防団】
内各消防団の出初め式が行われました。蒲生野中グラウンドで行われた丹波町消防団（松村俊憲団長）の出初め式には、消防団員や婦人消防協力隊員ら約三百六十人と、ポンプ自動車、小型ポンプ付積載車など十七台が出動。松原茂樹町長が「本年は町内の三消防団が『京丹波町消防団』として新たに出発する。築きあげた伝統を大切にしながら、いっそう強固な団結をもって町民に信頼される消防団であり続けてほしい」とあいさつを述べました。

▼山内千裕／竹内政彦／小山正幸
勤続二十年／人見治之（部長）▼坂本信幸（同）▼橋本秀樹（同）▼宮前正敏▼野村雅浩▼山内千裕▼谷垣藤男▼細見玉輝▼山内始▼上林茂治
勤続十年／山口利一▼北村和博▼平田学▼山下正明▼山下泰▼西山直人▼小原直也▼山下徹▼山田共夫▼塩貝学▼中敏則▼島中寿▼田中耕次▼畑恭浩▼前田稔▼坂本武▼坂本貴之▼前田和彦▼谷正流▼林喜昭▼室正博▼田端祐史

【和知町消防団】
勤功章／大田有次（副分団長）
精功章／橋本一幸▼片山和次
精功章／村山聡▼櫻川善久▼松下信之▼堀昌夫▼梅原洋一

【町長功労表彰（二十年勤続）】
山森英一（副団長）▼樋口直祐（副分団長）▼野間隆▼藤井嘉之▼木上学▼藤本正幸▼山口和之▼藤田敏秀▼吉田学▼野間猛司▼野間義▼梅原洋一▼片山和次

【瑞穂町消防団】
勤功章／増谷隆男（分団長）
精功章／真野勝也（分団長）▼上林弘（同）
精功章／隅田光郎（部長）▼堂本学（同）
▼井口和昭（同）▼西村正義（同）▼居谷大志（同）

【町長表彰】
西義史▼越川尚徳▼山内善史▼出野裕和▼久保元忍▼原田結城▼片山敏博▼片山山剛▼片山剛

【府消防協会表彰】
勤功章／増谷隆男（分団長）
精功章／真野勝也（分団長）▼上林弘（同）
精功章／隅田光郎（部長）▼堂本学（同）
▼井口和昭（同）▼西村正義（同）▼居谷大志（同）

【町長表彰】
西義史▼越川尚徳▼山内善史▼出野裕和▼久保元忍▼原田結城▼片山敏博▼片山山剛▼片山剛

きらりフォーラムを開催

一月十四日、和知ふれあいセンターで「きらりフォーラム二〇〇六」が開かれ、町民ら約五十人が参加。タレントの辻イト子さんの「男女・夫婦お互いに認め合ってこそ、今がある」と題した講演などを通じて、男女共同参画社会について理解を深めました。

このほか、環境問題をテーマに、同会員や町職員らによる寸劇なども行われ、手づくりの演技に声をあげて笑いながら、日常生活の身近な問題について認識を新たにしました。

このフォーラムは、性別や世代などを問わず、人として多様な生き方を認め合う社会をめざすため、日常生活で身近な話題や問題から、自分自身の生き方を見つめ直すきっかけをつかんでもらおうと、町内の女性団体やグループなどをつくる「きらりネットワークの会（白樺壽子会長、本庄）」が企画し、平成十五年度から毎年開催されています。



タレント・辻イト子さんの講演に耳を傾ける参加者（和知ふれあいセンター）

新成人の門出祝い

京丹波町成人式が一月八日、山村開発センターみずほで行われ、新成人百七十九人（男性八十六人、女性九十三人）が出席。式では、松原茂樹町長が式辞を述べた後、新成人を代表して大平稔さん（下山）が「社会人としての自覚を持ち、社会に貢献できるようながんばります」と誓いのことばを述べました。

この日は、子ども合唱団や新成人二人が組むアマチュアバンド・俺ん路（オレンジ）の歌や演奏があり、式に華を添えました。

式の後、新成人からは、恩師や友人と



新成人誓いのことばを述べる大平さん（山村開発センターみずほ）

家族のつながりの大切さ学ぶ

一月十六日、山村開発センターみずほで健康教育講演会を行い、町民約四十人が参加しました。

この日のテーマは「中高年期のメンタルヘルス―家族のつながりを考える」。臨床心理士の東牧子さん（花園大助教授）の講演を通じて、心の健康や家族間のコミュニケーションの大切さなどを学びました。

今年度の健康教育講演会は、三月一日



講演に耳を傾ける参加者の皆さん

友好町の写真展を開催

一月二十一日―三十日までの十日間、道の駅「丹波マーケス」で、友好町の北海道・上士幌町の写真愛好家グループ「たらんぼ」による写真展が開かれ、丘陵地に広がる小麦畑やチューリップ畑、野生動物など、同町民十三人が撮影した五十八点の写真が、買い物にきた主婦や家族連れの目を惹きつけていました。

この写真展は、上士幌町のグループ「たらんぼ」が、京丹波町内の写真サークル「丹波写真クラブ」（今西保代表、口八田）に呼びかけ、平成十四年に初開

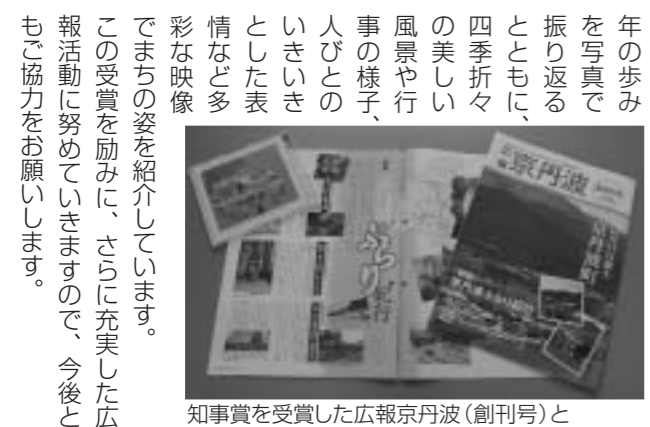


風景や野生動物、花畑などさまざまな写真が訪れた人々の目を惹きつけた（道の駅「丹波マーケス」）

広報コンクールで京丹波町が知事賞を受賞

このほど、平成十七年度京都府広報賞（広報コンクール、京都府・京都府広報協議会主催）が決定し、広報紙町村の部で「広報京丹波」（創刊号、十七年十一月発行）が、映像の部で旧瑞穂町の閉庁ビデオ「ありがとう瑞穂町」（旧瑞穂町・瑞穂ケーブルテレビ制作）が知事賞を受賞しました。

受賞した広報紙は、京丹波町の文化や観光地などを紹介した「特集・京丹波がらり紀行」や、町の組織・職員の配置などを掲載。ビデオは、旧瑞穂町の五十四



知事賞を受賞した広報京丹波（創刊号）と旧瑞穂町の閉庁ビデオ「ありがとう瑞穂町」

まちの 人気人

2

いつまでも若々しく ありたいですね

しらかしひさこ
白樫壽子さん(61歳) 本庄



活動を充実させて、魅力のある会にして
いきたいですね」と話すのは、町内の各種女
性団体などをつくる「きらりネットワークの
会」の会長・白樫壽子さんだ。

同会は、平成十五年、町内の女性がいき
きと自分らしく暮らせるよう、各種の女性団
体が手を取り合い、真の男女共同参画社会の
実現に向けて取り組むことを目的に「和知町
女性ネットワークの会」として発足。フォー
ラムや各種講座を開き、性別や世代を問わ
ず、人として多様な生き方を認め合う地域
づくりに取り組んでいる。一月十四日には
合併後初となる「きらりフォーラム二〇〇
六一」を開催した。

「合併して、今年のフォーラムが開けるか
どうか心配でしたが、関係の皆さんのご協力
により開催できました」と白樫さん。「男女
共同参画」って聞いただけで難しいイメージ
があるので、フォーラムでは寸劇などを取り
入れて、楽しく参加できる雰囲気づくりに努
めています」と話す。

最近では女性がさまざまな会議に出席す
る機会が増えてきているという白樫さん。し
かし、「本当の意味での参画はできていない
のではないだろうか。町全体に活動を広げ、
多くの皆さんの参加のもとで活動を充実し
ていければ」と話していた。

スポーツが好きな白樫さんは、ソフトバ
レーボールをしたり、和知ふれあいセンター
で開かれているスクエアダンスに通ったり
して汗を流している。登山も好きで、以前は
北アルプスなどにもよく出かけていたそう
だ。

また、地元で採れた食材で、さまざまな加
工食品を製造する女性グループ「活き生きク
ラブ」にも参加している白樫さん。「日々の
生活を前向きに過ごしていきたい、いつま
でも若々しくありたいですね」。エネルギーシ
ュな白樫さんの目がいつそう輝いた。

編集後記

今回は地域の子どもの安全確保を
テーマに特集を組んだ。取材した各学校
では、さまざまな取り組みを通じて、子
どもたちの安全確保対策が図られていた。
地域でも、防犯推進委員の皆さんや、下
校する児童を見守る地域の皆さんの熱心
な取り組みがあった。「開いて守る」。こ
れは取材先の学校で校長先生から聞いた
言葉。「開かれた学校」を保ちつつ、いか
に子どもの安全を確保するかが大切な
だが、それにはやはり学校と地域が連携
した防犯対策が重要。地域の宝である子
どもたちの安全を見守る皆さんのあたた
かい「目」が、防犯の大きな力になるの
だと感じた。▼立春だが、まだまだ寒い
日が続いている。この時季、インフルエ
ンザや風邪には気をつけたいもの。予防
には、こまめに手を洗うのが効果的だと
か。またウイルスは乾燥を好むので、部
屋の加湿も大切らしい。皆さん、注意を
（Y）

わたしたちの町

人口 17,856(-21)
男 8,489(-9)
女 9,367(-12)
世帯数 6,482(+2)

2月1日現在 / ()は前月比